

ルリイトトンボ

Enallagma boreale

イトトンボ科



ルリイトトンボ

名前の由来

「瑠璃糸トンボ」で水色の体色をした糸トンボ、糸は腹部が細いためだと思われる。「トンボ」については、東北地方でトンボのことを「ダンブリ」「ドンブ」などといい、「ドンバ」→「トンバウ」→「トンバ」→「トンボ」となったのでは、という説がある。また「飛ぶ棒」が変化したものという説もあるが、「棒」が漢語であり、古代日本語としては不適切との指摘がある。漢字名：瑠璃糸蜻蛉

形態的特徴

体長33～36mm。ほぼ全身水色のイトトンボ。メスはオスと同色のタイプと黄緑色のタイプがある。

類似種と見分け方：エゾイトトンボ、キタイトンボ、セスジイトトンボ、カラフトイトトンボ。

胸部や腹部の斑紋の形などで区別できるが、識別は慣れないと困難であり、ルーペや実体顕微鏡が必要。

生息環境・分布

平地から高山の水生植物が繁茂した湿原、池沼に生息。

十勝地方では、平地から高山の湿原、池沼に生息している。

分布：樺太に分布。国内分布は、岐阜県北部以北。北海道内では、全域に分布。

帯広市、音更町、幕別町、新得町、中札内村、豊頃町、浦幌町、大樹町などで確認されている。

食性・他生物との関わり

幼虫時期はユスリカやイトミミズ、魚の稚魚、オタマジャクシなどの水中の小動物。成虫になるとカヤハエなどの昆虫類やクモ類を捕食する。

幼虫は魚類やカエルなどに捕食され、成虫になるとムシヒキアブなどの肉食性昆虫やクモ類、カエル類、大型のトンボ類、鳥類などに捕食される。

繁殖生態・寿命

産卵は連結したままで行われ、水面付近の植物組織内に産みつけられる。成虫は6月下旬から9月中旬に見られる。

寿命：幼虫期間1年以内、成虫期間1～2ヶ月。

興味深い話

■全身水色に見えるイトトンボのうち、十勝地方で普通に見られるのはルリイトトンボとエゾイトトンボ、キタイトンボの3種類である。見慣れてくると肉眼でも識別が可能だが、確実に識別できるようになるためには、実体顕微

鏡で識別点をよく確認する必要がある。

■十勝地方のアイヌ語で、トンボ類を「ハンクカチュイ」という。

配慮事項

他のトンボ類と同様に、池や沼の中に水草が生えていることが大事。羽化するとき水草に登って羽化する。池や沼

の周辺に樹木や草原があることも大事。羽化後の成虫の採餌場と休息場となる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
卵期・幼虫期												
成虫期												

参考文献

「蝦夷の蜻蛉」 広瀬良宏・伊藤智 自費出版 1993

光俊 東海大学出版会 1988

「北海道のトンボ」 二橋愛次郎 エコネットワーク 2002

「コタン生物記Ⅲ 野鳥・水鳥・昆虫篇」 更科源蔵・更科光、法

「講談社カラー科学大図鑑 トンボ」 枝重夫 講談社 1982

政大学出版社 1977

「日本産トンボ幼虫・成虫検索図説」 石田昇三・石田勝義・杉村

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・樹林) 鳥類
ワシ・タカ